

特別寄稿

飛行機が好きだ！ 海外出張の思い出

金丸 幹夫

1931年生の私は幼少の頃から飛行機がダントツの好みで、『月刊飛行少年』と『航空少年』の2冊に毒されて空を目指した。

戦時14歳の少年が日本航空学校の二年生の末期のことである。練習用の複葉機(通称赤トンボ)の発動機の発進時に音の異常を発見し、教官に「気筒の点火線のズレか？」と指摘したところ、それが的中した。以来、「主席君」と呼ばれ嬉しさ万感の思いが語り草で続いたが、これも夢か、間もなく“日本チンボツ！”、敗戦となって消えた。しかし、飛行機が好きで空を駆け海外を飛び回りたいという想いは消えることはなかった。

人生激変での再出発は2年遅れで5年生の甲府中学に入学、更に学校改革で甲府一高になり、6年間も居座ることになった。6年間の同校時代の前半は時世敗者の展開では英語必須かと「語学部」に入会、ヒヤリング高揚のため米国映画の数多くを視聴する。しかし語学向上という早期の目的は順次疲れ、映画に魅惑され「映画部」に転会し

た。後期は映画製作を夢見て、なりての無い部長までのめりこむ一方通行を走った。

当時のアカデミー賞受賞作は「我等の生涯最良の年」。この作品は第二次世界大戦が終わり、アメリカ中部の町に復員兵が帰ってきた人間社会の復帰を描くアカデミー8部門受賞大作である。この映画が描く人間像に感激したことで数回も鑑賞するなど、当時の小生は必須の大学進学に用意すべき進学適正検査などを全く忘れていた。

大学(日芸映画学科)を卒業したころの映画産業は斜陽期でビデオ先行となり、テレビドラマのロケ用インサートフィルムもVTRに変遷の指向であった。大学卒業後、TBS演出部でフィルムとビデオの両刀使いで多年にわたり関わる私は、間もなく訪れるビデオデジタル化の到来で、“VTRCM”の制作が一挙に多忙化した。

現役時代の私の仕事はTVCM制作が多く、特にVTRベース映像関連で海外CG映像の“SIGGRAPH”や映像機器展示の

“NAB SHOW”等の関連企業を訪問することが多かった。その海外渡航には、当時出回ったばかりの“JALカード”が大きく貢献したといってもいいだろう。私はマイルの累計多大として1986年にグローバルカードを取得、その恩恵で年一回アメリカの各都市で開催される映像制作関連等のイベントツアーに積極的に参加することができた。

このグローバルカードのおかげでうれしかったことがある。生まれて初めてファーストクラスを体験することができた。羽田からシカゴまでの11時間55分のフライトで、乗客が少ないこともあって(ファーストクラスは老夫婦だけだった)、アップグレードという幸運に恵まれたのである。うれしいやら戸惑うやら…。ゆうたりとした座席で、パーサーやCA嬢に囲まれて飲んだ“シャプリ”の美味は今でも忘れない。

その後、シカゴで乗り継ぎ、ケベックに向う。グローバルカード片手に何度か飛行機で渡航したが、その中でもカナダのケベックを訪れた時のことは記憶に残っている。

ケベックは古い歴史を背景に90%がフランス語のエリアである。宿泊ホテルは“モンテカルロ”、当地滞在の日本人コーディネーション観光サービスをセットにした有意義な旅となった。特にプリンスエドワード島をはじめとした自然は素晴らしく、CM撮影の企画素材にと数多くのシャッターを切った。

しかし、旅は愉快的なことばかりではない。アメリカのボストンで開かれた





グラフィックデザインのイベント“SIGGRAPH”に向かう途中で起きたカナダ・トロント空港でのトラブルである。それはトランジット事務官の不親切で高圧的なパスポートチェックから始まった。日本人の私を後回しにして早口での詳細な質疑に、ブロークンな英語では通用せず、理解もされず、戸惑うばかりでマイッタ！申請書には旅のプロセスから持参金まで記載されているのに、係官は一見のみで、威圧的に「ダーマキ！ダーマキ!!」と繰り返す。まるで犯人扱いの私は「ダーマキ」の意味がやっと解りかけた。キーワードは“ドーマキ”つまり“ハラマキ(腹巻き)”で、胴巻きにお金を隠し持っていないかという疑いである。頭にきた私は下半身を脱ぎかけ、大声で {ナッシング!} と叫んだ。20分の押し問答の末、やっとOKとなり、ラストの乗客として15分も遅れて機内に乗り込んだ。他の乗客からは、当時多かった農協のツアーメンバーと間違えられ、満席の中を冷やかな視線を受け、しょぼくして席に着いたのであった。

この時のグラフィックイベントはCG映像のTVCM入賞日本作品の発表会への参

加であり2日間で終了、残りの日々はCG連携のマサチューセッツ大学と名門ハーバード大学との交流会に参加した。夜はロプスターロールとクラムチャウダーで超有名なクインシーマーケット内の“ポストンチャウダー”を白ワイン片手に10数名で盛り上がったものである。

また、ニューヨークを訪れた時、TBSとNY支局と連携しているCBSをはじめとする世界の第一線ネットワーク放送局の見学は気分が高揚し、実に楽しかった。さらに3大ポストプロダクションであるテレトロニクス、リーブステレテープ、600人スタッフのスクリーンジェムズでの社内アプローチは感激の対応を受け、流石の声が出たものである。

続いて訪れたCMプロダクションPD社(ベストピープルインク)は、10名のクリエイターが各自10社を担当、それを会社が包括するというユニークな広告代理店であった。この方式は日本のCM制作会社にとって大いに参考となり、独りの企画ディレクターを中心とした“マンションプロダクション”の多発かと声も上がった。

ニューヨークでの夜も盛り上がった。42丁目ニューヨーク中央駅(グランドセントラル)地下にあるシーフードレストラン・オイスターバーでは世界中のオイスターとポンド扱いのエビ等の海鮮料理に舌鼓を打ちながら、取材した話題が交錯、そのパワーがマンハッタンの夜を更に印象深く飾り上げた。このニューヨーク訪問では予定より一日延泊、夜のダウントウン

にスキンシップ、プレッカーストリートのブルーノートに近い“ピターエンド”でJAZZとワインでひとり旅の疲れを癒した。

ニューヨークから日本で戻る14時間のフライトはエコノミー席もビジネス後ろ寄りではあり、グローバルカード片手に、大好きなボーイング747の機内でサービスのワインを5本も開け、夢見心地の快適なひと時であった。

私の旅の思い出は、いつも大好きな飛行機と共にある。



著者 金丸幹夫 略歴

- 1956年3月 日本大学 芸術学部 映画学科 卒業
- 1959年4月 (株)東京放送 演出部 契約
- 1965年4月 (株)TBS映画社 入社 コマーシャル部長
- 1970年4月 宣伝会議 コピーライター 講師
- 1981年8月 ビデオコミュニケーション協会設立
- 1984年6月 (株)TBS映画社=(株)TBSビジョンに社名変更。クリエイティブ局長
- 1986年4月 尚美学園 映像企画制作・講師
- 1986年7月 (株)プラスアルファ(株)TBS関連) 設立 代表取締役
- 2004年8月 NPO日本ビデオコミュニケーション協会(JAVCOM)設立 理事長
- 2022年7月 同協会名誉会長/現在に至る